

---

# 俺の中学時代

中村

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

俺の中学時代

### 【Nコード】

N4501I

### 【作者名】

中村

### 【あらすじ】

ごくごく普通の学生が学校の生徒と愉快的な毎日を刻んでいく

俺と愉快的な仲間たち（前書き）

初めてなんで宜しく願います

## 俺と愉快的仲間たち

朝6時学校があるので親に叩き起こされながら起床

「亘、さっさと起きないと学校行かなくちゃ退学しちゃうわよ」

笑顔でこんな事を言われたらもう起きるしかなかった

俺が通ってる学校は遅刻を6年の間に3回すると退学になってしま  
うのだ

だから起きるしかなかった

肌寒くなった秋布団から出るのは、凄く難しい

気付けば6時10分、お母さんはもはや俺を無視している

まだ布団に入っていたい欲望に打ち勝って下の階に自分の部屋から  
降りる

そしてケロ？ツグコーンフロステイを10分で食べて制服に着替え  
て登校！

もう時刻は6時20分、30分の電車に乗らなければ学校に遅れて  
しまう

自転車をハ？テのようにかっ飛ばしてなんとか6時30分の電車に  
乗れた

ガタン、ゴトン

ガタン、ゴトン

電車の心地よいリズムに乗っていたら眠りについてしまった

そして目を開けると目的地を告げる駅員さんの声と同時に天使の声  
がした

「中村くん電車付いたよ」

「先輩!？」

おもわず大声を出してしまった

なんて目覚めのよい朝なんだろうかいま死んでもいいと思った

「先輩何故此処に!？」

「えっ、だって中村くんと同じ電車だもん」

先輩、その凶悪的なほど可愛い笑顔はやめてくれ  
彼女は俺と同じ部活の先輩 榎本 百合先輩だ

「ああ、そうでしたねこんにちは」

「うん、こんにちは」

話すたびに可愛いと思ってしまう

先輩と挨拶を交わしていると俺の親友こと中山 大貴が電車から降りるところを見たので俺は先輩と別れて中山のところに行った

「中村、中村あのとてつもなく可愛い先輩誰?今度俺に紹介しろ」

「はいはい分かりましたよ」

と、こんな感じの話をしていると学校についてしまった

今日はどんなことがあるんだろうと思いつつと思いながら学校の校門を後にした

俺と愉快的な仲間たち（後書き）

評価やってくださいねー

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4501i/>

---

俺の中学時代

2010年10月15日06時01分発行